

山江村議会だより

まるおか

No. 71

(やまえ発見：代々受け継がれる伝統と匠の技)



写真の説明

現在の万江阿蘇神社は、享保13年(1728年)に3度目の再興をされたものと記録があり、その創建は青井阿蘇神社創建から1年後、平安時代の大同2年(807年)とのことから、1200年を超える歴史があります。

写真は鳥居建替え工事中で、棟梁は前回に続き谷口剛さんです。指導を受けながら地区の皆さんが交替して作業を行っています。年内には新しい鳥居に換わりますので参拝方々ご覧下さい。

神社関係者より

目次

○平成30年第5回議会定例会報告	P2
・平成29年度一般・特別会計決算	P2~3
・平成30年度一般・特別会計補正予算	P4
○一般質問	P6~11
○議員活動の1コマ	P12
○だんだんなあ	P12

平成30年10月31日発行 発行：山江村議会 編集：広報編集特別委員会

熊本県球磨郡山江村大字山田甲1356-1 ☎(0966)23-3401 FAX(0966)22-0105 山江村域内電話 ☎23-3401

平成29年度一般会計・特別会計

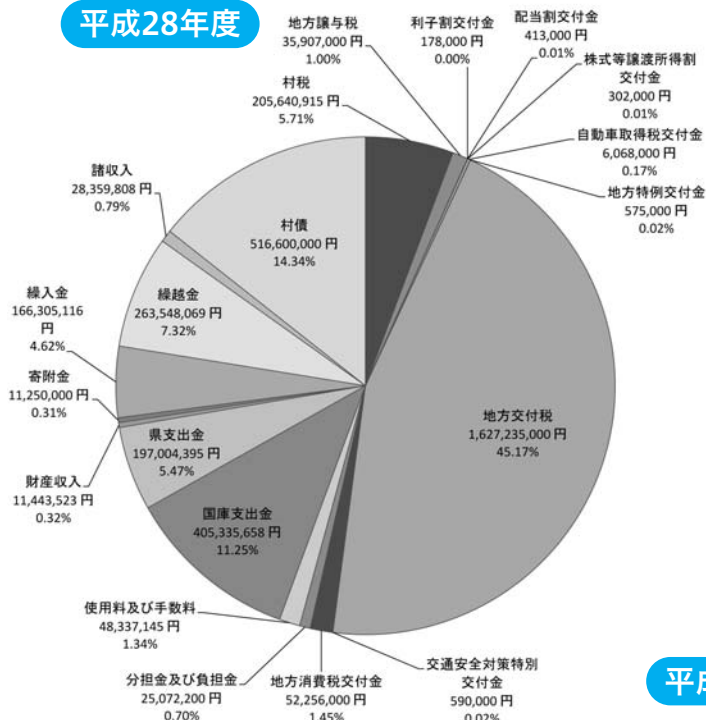
平成30年第5回9月議会定例会は、9月5日から14日までの10日間の会期で開かれた。今定例会では、平成29年度一般会計・特別会計の決算認定7件をはじめ、平成30年度一般会計・特別会計補正予算7件、山江村移動通信用鉄塔施設の設置及び管理に関する条例の一部改正など4件、人事案件として、山江村監査委員の選任、山江村教育委員会委員の任命同意など2件の計20議案が提案され、全て原案どおり可決された。

また、住民から提出された請願書、陳情書についても審議を行い、陳情書は採択、請願書は閉会中の継続審査と決定しました。請願書は今後、産業厚生常任委員会で継続して審査を行っていく。今定例会は13日に6名の議員が一般質問を行い、当面する行政課題等について執行部をたずねた。

歳入決算前年度との比較

【単位：円，構成比％】

平成28年度



歳入総額 3,602,420,829 円

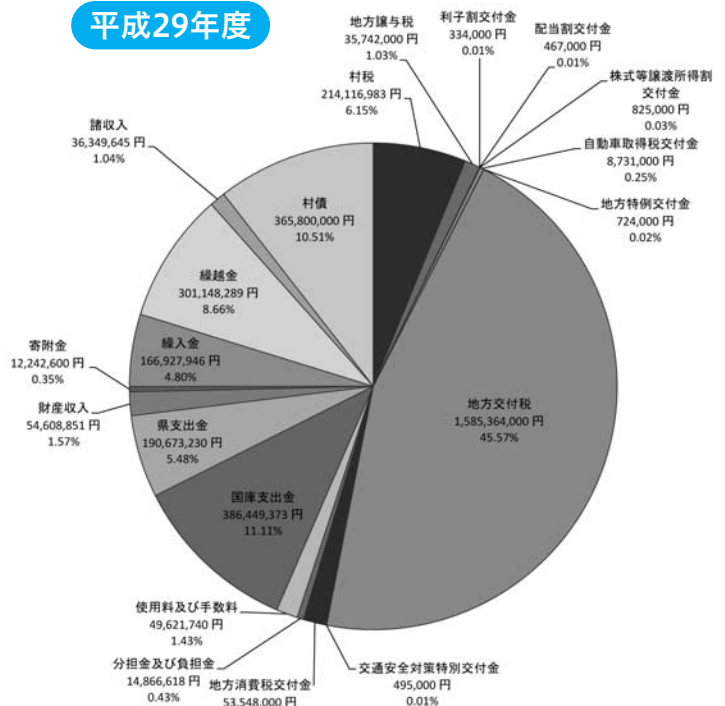
主に減ったもの

- 地方交付税:41,871,000円の減(対前年度比97.4%)
※村の財政需要に即して必要な財源を確保するために、国民の負担する租税を国と村のそれぞれの財政需要によって配分され、村の財源保障を確保するもの。
- 分担金及び負担金:10,205,582円の減(対前年度比59.3%)
※地方自治法の規程に基づき、条例等によって賦課する分担金及び負担金。
(児童福祉費負担金、老人福祉費負担金)など
- 国庫支出金:18,886,285円の減(対前年度比95.3%)
※国庫(負担金、補助金、委託金)より、事務の全部及び一部が交付される。
(児童福祉費負担金、地方道路整備交付金、社会福祉費補助金等)
- 村債:150,800,000円の増(対前年度比70.8%)
※地方税、地方交付税及び国庫支出金などの財源以外に長期の借入資金を財源とするもの。
(道路橋梁費債、携帯電話基地局整備事業債、公営住宅債など)

主に増えたもの

- 村税:8,476,068円の増(対前年度比104.1%)
※(村民税、固定資産税、軽自動車税、市町村たばこ税、入湯税)
- 自動車取得税交付金:2,663,000円増(143.9%)
※県に納付された自動車所得税から徴税費の額を控除した額の70%相当額が交付される。
- 国庫支出金:95,651,376円の増(対前年度比130.9%)
※国庫(負担金、補助金、委託金)より、事務の全部及び一部が交付される。
(公営住宅建設補助金、地方道路整備交付金、社会福祉補助金等)
- 財産収入:43,165,328円の増(対前年度比477.2%)
※村の有する財産を貸付けたり、又は売却することによる収入。
(土地建物賃付収入、立木売却収入、土地売却収入、建物売却収入等)
- 繰越金:37,600,220円の増(対前年度比114.3%)
※前年度の予算繰越金

平成29年度



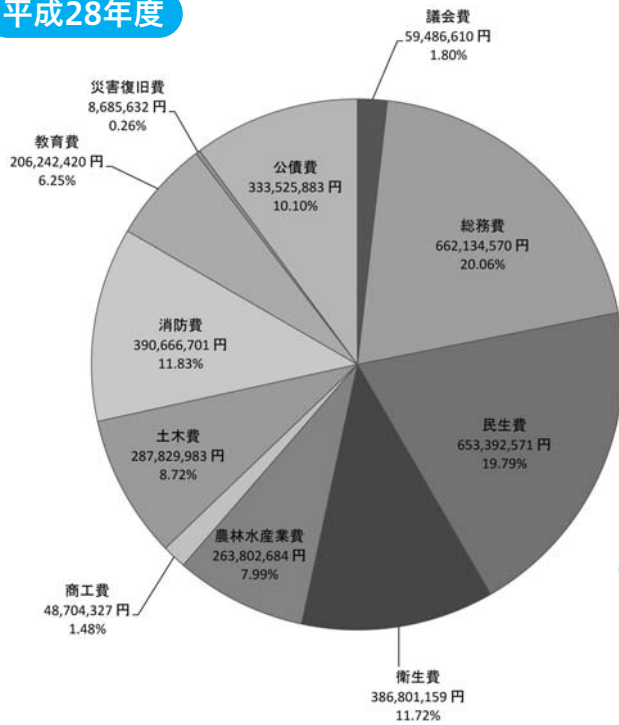
歳入総額 3,478,888,275 円

決算を認定!

【単位：円，構成比%】

歳出決算前年度との比較

平成28年度

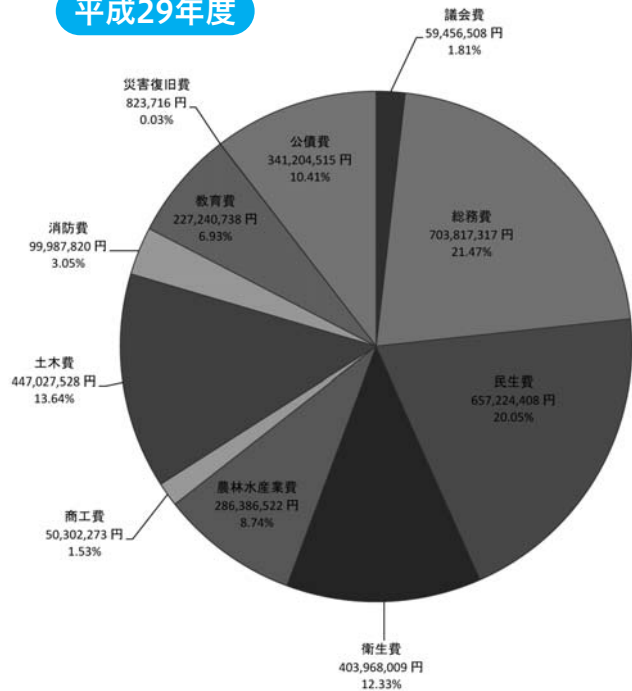


歳出総額 3,301,272,540 円

主に増えたもの

- 総務費:41,682,747円の増(対前年度比106.3%)
※移住定住推進費(堂園地区分譲地造成工事)、財政調整基金費など
- 衛生費:17,166,850円の増(対前年度比104.4%)
※保健衛生総務費(人件費)、健康増進事業費(委託料)など
- 農林水産業費:22,583,838円の増(対前年度比108.6%)
※農業振興費(万江地区農業法人運営費、中山間農業モデル地区事業費)など
- 土木費:159,197,545円の増(対前年度比155.3%)
※社会資本整備事業(下之段橋梁工事)など

平成29年度



歳出総額 3,277,439,354 円

主に減ったもの

- 議会費:30.102円の減(対前年度比99.9%)
※共済費(議会議員共済会給付費負担金)など
- 消防費:290,678,881円の減(対前年度比25.6%)
※デジタル防災無線工事など
- 災害復旧費:7,861,916円の減(対前年度比9.5%)
※道路河川災害復旧事業など

会計別歳入歳出決算額

【単位：円/％】

会計名	予算現額	決算額		歳入歳出差引額	執行率	
		歳入総額	歳出総額		歳入	歳出
一般会計	3,710,735,000	3,478,888,275	3,277,439,354	201,448,921	93.8%	88.3%
国民健康保険	616,593,000	618,616,764	583,002,308	35,614,456	100.3%	94.6%
簡易水道	185,912,000	186,014,602	180,942,659	5,071,943	100.1%	97.3%
農業集落排水	139,298,000	140,009,758	134,076,621	5,933,137	100.5%	96.3%
介護保険	454,651,000	454,689,466	381,236,140	73,453,326	100.0%	83.9%
後期高齢者医療	33,209,000	33,219,227	31,947,048	1,272,179	100.0%	96.2%
ケーブルテレビ	73,509,000	73,683,677	60,278,024	13,405,653	100.2%	82.0%
合計	5,213,907,000	4,985,121,769	4,648,922,154	336,199,615	95.6%	89.2%

平成30年度 一般会計補正予算(第3号)

歳入

【単位：千円】

区分	補正前額	補正額	計	説明
地方特例交付金	600	217	817	地方特例交付金の増
地方交付税	1,465,000	501	1,465,501	普通交付税の増
国庫支出金	336,711	25,697	362,408	(公共土木施設、林業施設)災害復旧補助金の増
県支出金	197,339	2,926	200,265	間伐等森林整備促進対策事業補助金の増
繰入金	623,157	9,664	632,821	特別会計繰入金
繰越金	132,239	51,239	183,478	繰越金
諸収入	31,617	1,729	33,346	熊本地震の復旧・復興に係る職員派遣負担金
村債	343,800	20,400	364,200	(公共土木施設、林業施設)災害復旧費債
歳入合計	3,513,033	112,373	3,625,406	

◆予備費 (36,491千円) 道路河川・林業施設災害復旧費 41,880千円 など	◆災害復旧費 (41,880千円) 文化財保護費修繕費 550千円 教育ICT環境整備費備品購入費 432千円	◆教育費 (2,894千円) 土木機械管理費修繕料	◆土木費 (400千円) 温泉センター備品購入費 3,600千円	◆商工費 (6,302千円) 公有財産購入費 5,120千円 間伐等森林整備事業委託料 3,460千円 鳥獣被害対策施設整備補助金 1,303千円	◆農林水産業費 (12,473千円) 環境整備費印刷製本費 321千円	◆衛生費 (626千円) 児童福祉費国県支出金返還金 1,797千円 障がい者福祉費国県支出金返還金 1,336千円 臨時福祉給付金補助金返還金 1,259千円	◆民生費 (5,897千円) 地方税共通納税システム業務委託料 1,741千円 土地情報システム変換業務委託料 864千円 やまえまのランディング委託料 1,080千円 例規整備支援委託料 1,950千円	◆総務費 (5,410千円)	歳出合計(112,373千円) 主な補正予算の内容はこんなもの！
--	---	------------------------------	-------------------------------------	--	--	---	--	----------------	-------------------------------------

平成30年度 特別会計補正予算(第1号・第2号)

歳出

【単位：千円】

会計名	補正前額	補正額	合計	補正予算額の財源内訳			
				特定財源			一般財源
				国県支出金	地方債	その他	
国民健康保険事業	462,000	34,254	496,254	0	0	0	34,254
簡易水道事業	159,000	1,158	160,158	0	0	0	1,158
農業集落排水事業	136,000	2,755	138,755	0	0	0	2,755
介護保険事業	437,000	73,174	510,174	0	0	0	73,174
後期高齢者医療事業	35,000	520	35,520	0	0	0	520
ケーブルテレビ事業	100,000	7,525	107,525	0	0	0	7,525

(国民健康保険、簡易水道、後期高齢者医療、介護保険、ケーブルテレビ)事業は補正第1号
農業集落排水事業は、補正第2号

こんなことが決まりました

山江村監査委員

■住所：山江村大字万江屋形

■氏名：木下 久人 さん

任期：平成30年9月9日
～平成34年9月8日



山江村移動通信用鉄塔の施設及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定

鉄塔施設の位置が確定したことに伴い条例の一部を改正するもの。

鳥屋移動通信用鉄塔施設	万江丙489番5
日当移動通信用鉄塔施設	万江丙548番2
横手移動通信用鉄塔施設	万江丙564番5

山江村教育委員会委員

■住所：山江村大字山田手石方

■氏名：横山 理恵 さん

任期：平成30年10月1日
～平成34年9月30日



山江村分収造林に係る地上権設定契約の解約

契約時山林の所有地	山田大平27-2
契約時面積	40.70ha

請願書及び陳情書

- 濁毛地区水田の浸水被害に関する陳情書
「結果：全会一致で採択」
- 二連木堰再利用に関する請願書
「結果：閉会中の継続審査」

公共工事請負契約の締結

工事名：平成30年村道県道下段線下之段
橋下部工（P2）工事
契約金額：132,840,000円
請負会社：株式会社 中央設備

熊本県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更

広域連合議員は構成市町村（県内全市町村）の長又は議会の議員により組織しているが、改正では現在の議員定数を32人から45人へ変更するもの。また、各構成市町村の議会において1人を選挙し選出するもの

決算に伴う監査委員の審査意見書

平成29年度決算は、一般会計に特別会計を合わせた総決算額においては、歳入4,985,122千円、歳出4,648,922千円で、形式収支は336,200千円の黒字、実質収支は318,229千円の黒字であり、実質単年度収支は48,727千円の赤字となっている。

しかしながら、今後も高齢化が進み、医療技術の高度化や老人医療受給者の増加等により、医療費等に係る歳出が益々増加するものと思われる。

一般会計の財政構造は、実質収支比率10.6%で前年度より4.5%降下し、経常収支比率は90.0%で1.4%上昇、財政力指数は0.139で0.004と上昇し、実質公債費比率は9.2%で0.2%降下している。

今後とも厳しい財政状況の中で、自主財源を確保するとともに経常的経費を節約し、積極的に諸事業の推進を図り、一層の計画性と効率性を求め、健全で持続可能な行財政基盤の構築に取り組み、村民の福祉の増進と安心して暮らせる山江村づくりにより一層努めることを望む。

一般質問!!ここが聞きたい!!

(一般質問)

質問順	議員氏名	質問事項	ページ
1	森田俊介	○村長の政治方針について ○山江温泉、物産館について ○小中学校の校内と通学路の安全性について ○鳥獣被害対策、野良猫の対策について	6~7ページ
2	西孝恒	○やまえ栗ブランド力向上推進事業について ○スクールバス停を含むバス路線や通学路の安全対策について	7~8ページ
3	中竹耕一郎	○地域づくりと100人委員会について	8ページ
4	立道徹	○村道・農道等公共施設の除草業務委託について ○本村の過疎地域等における集落対策の推進について ○村内小中学校における「いじめ」対策について	9ページ
5	松本佳久	○丸岡号の運行について ○第6次山江村総合振興計画について	9~10ページ
6	横谷巡	○施政方針について ○農業経営の担い手・人づくり、組織化づくりについて ○女性の健康支援「乳がん検診」について	10~11ページ

※議会だよりは、文字数が限られているため、一般質問内容のすべてを掲載していません。
また、各議員より提出された原稿のまま掲載しております。

村長の政治方針は



森田 俊介議員

質問 村長の施政方針に、「所得の向上」「暮らしやすい福祉の充実」「安全、安心な暮らしの確保」「村民が輝く人材育成」などがあるが。

答弁 農業は、栗のブランド化を進め、林業は、特用林産物の拡大生産に取り組み、商工業では、プレミアム商品券を発行し、連携を深めていきたい、山江村の課題解決に向けてしっかりと村政を担当していきたいと思っております。

質問 物産館に新設する栗のペースト工場の状況と現状は。

答弁 工期を11月末としており、工期終了後、検査等を経て、直ちに栗加工品等の試作・製造を行ないたいと考えています。

質問 小学校、中学校内と通学路の

安全性については。

答弁 交通安全、防犯、防災の3つの観点から安全対策を講ずる必要がある。学校から報告があった危険箇所を中心に県土木部、駐在所、各学校、建設課、教育委員会など合同点検を実施しており、通学時における事故防止に努めたい。

質問 山田小学校、万江小学校グラウンド樹木の伐採、剪定の計画は。

答弁 平成30年度に計画し、夏休み中に実施したい。

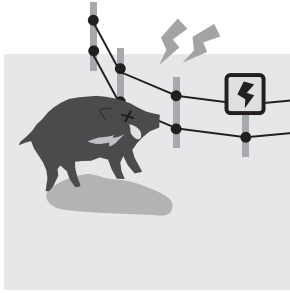
質問 通学路、日向瀬橋から山田小学校から小山田線の通学路に「イノシシ、シカ」などの大型鳥獣が出没する状況であるが対応は。

答弁 通学路の安全性も含め、人的被害、農林産物の被害防止対策としては、ワイヤーメッシュの防止柵もある。

質問 サルの被害対策については、なかなか捕獲に困難がある。大型の箱罠や専門家の研修など必要だと思うが。

答弁 有害鳥獣対策委員を熊本県南を代表として、情報を集めながら状況に対応していきたい。

質問 野生の猫が、現在、山江村地域で、トラブルになっている。山中や林道などに子猫や親子猫など捨てて帰る状況でもあり、県が補助金新



他町村で設置している鳥獣被害防止の金網柵

設で、犬、猫の殺処分ゼロに対し、猫や犬の避妊、去勢の費用制度を創設しましたが、山江村として新設補助金の利用の考えは。

答弁 各地域から野良猫による糞害などの情報が多く、環境美化監視委員会議の中でも野良猫対策の課題あげ、次回の会議で検討していきたい。

質問 この事業については、補正予算第3号で108万円の追加であるがその事業については。

答弁 機内誌のやまえ栗特集記事など山江村だけを集めた冊子を作るのに108万円かかる、5000部を

質問 「やまえ栗ブランディング事業」についてその事業内容や状況を伺う。

答弁 今年度取り組む事業として海外でのやまえ栗PR活動に300万円、全国発行誌にやまえ栗を掲載しPRする事業として250万円を計上している。今年度はフランスのみならずアジアをターゲットとして食品展示会等へ出店を考えている。また飛行機の機内誌に掲載される運びである。

やまえ栗ブランドカ 向上推進事業とは



西 孝恒 議員

作成できるので国内主要空港のほか村のPR材料として活用できる。

質問 昨年6月、フランスでの販売や商談後の進展状況は。

答弁 輸出するには関税等の問題もあることで、販売のロット数を上げることが大事、更なる販路拡大の展開等を進める。

質問 地域づくり研究所におけるやまえ栗ブランド力向上の進捗状況は。

答弁 東京大学との共同研究により成果品が出ている。公式ガイドブック「やまえ栗の一年」ダイジェスト版「山江村は栗づくし」の発行をはじめデータ化、QRコードの作成などまた栗コンソーシアム会議を定期的に開催している。

質問 栗生産事業については約1500万円の計上であるがその事業内容と事業の進捗状況について。

答弁 国の地方創生推進交付金を活用して、やまえ栗の団地化と生産量の増加、農業所得の向上につなげるため、栗の新植を推進する事業である。選定された圃場の地拵えから苗木代、施肥防護柵など受益者の個人負担はない委託事業である。

質問 歩道の老朽化や横断歩道等の標示の劣化対策について。

答弁 毎年のように県へ要望してい

質問 スクールバス路線の各待合所の管理状況について。

答弁 年1回スクールバスを利用する万江小、山江中の保護者や児童生徒で清掃を行っている。また管理費についてはPTA予算に計上されている。先般バス停の状況を調査したが看板も傷んでいる。待合所については設置者の意向を確認し、できるだけの支援をして行きたい。

スクールバス停を含む バス路線や通学路の 安全対策を



フランスでのやまえ栗を使った商品商談会

るが、一応予算内で優先順位によるようである。来年度以降になるかと思う。

質問 山江村通学路交通安全プログラムの実施状況や危険ブロックの塀など調査結果や対策について。

答弁 該当するブロック塀は万江小と山江中に各1カ所あり一部ではあるが高さ制限を超えているなど県へ報告し応急的に安全対策をとっている。子どもたちの安全面から県の動向も含め、速やかに改修したいと考える。



PTA等で管理されているスクールバス待合所



中竹 耕一郎 議員

地域づくりのあるべき姿は

質問 地域づくりはどうかあるべきか。基本的な認識、狙い、やり方、手法、地域の姿、課題は。

答弁 持続可能な山江村を創る。地域社会の維持を前提として、絶えず変化をしていくその時折の課題に対して柔軟な対応で対策を打ち事業を展開していく。積極的に取り組む。資源を活用し、経済的にもしかり、心の豊かな暮らしを実現する。夢のある山江村として残すことが我々の責任である。

質問 人口減少が課題である。人吉球磨地域をひとつのフィールドとする事が必要ではないか。財政的な将来予想からすれば、フルセットで環境設備はほぼできない。狭い地域での人口の取り合いは不適切では。

答弁 地域がそれぞれのやり方でよ

り良い地域づくりを進め移住を図り人口確保に努めていく。

質問 せっかく地元の素晴らしい教育を受け都会の専門高校、大学を卒業しても殆ど村に帰らない。都会の働き手として取られてしまう。今後、帰りたいと思う地域づくり、帰ったら夢を持つて暮らそうと思う産業界づくりも必要と思うが、学校での職業キャリア教育の状況は。

答弁 帰って来られる環境を整えていきたい。起業体験推進事業を文科省補助で実施した。グローバル社会に向けて取り組む。

質問 地域づくり研究所について、規模はどうするのか。時期はいつまでを目標とするか。100人委員会への支援は。

答弁 地域づくりに関するICTを活用した法人組織設立を目標としている。地方創生の交付金活用ができなくなれば別の方法を考える。住民の皆さんが実践運動できる中間的な組織とし活用していく。未来塾には口出ししない。

質問 先駆的な企画実践であるが、今ひとつ村民の情報共有具合が足りないのでは。

答弁 総務省発行の情報通信白書でも事例紹介された。創意工夫を重ねる。

質問 費用対効果検証の観点から事業の報告書、白書を適切な時期に発行すべきでは。外部からの事業評価が必要では。チーム山江としてさらなる業務推進を期待するところだが。

答弁 事業成果については指標が曖昧である。PDCAサイクルに基づき数値を定め業績評価している。達成度を確認する手法を検討する。将来を見据えポジティブに活動する職員を育成する。二年前に発行したスパービレッジ冊子そのものが将来の村を想像したものである。



やまえ100人委員会の活動報告会(全体会)

一般質問

質問 森林組合の合併により、事業依頼の応変的な対応が足りないように思いますが、除草作業等の委託先、受け手の新たな組織化を図る考

答弁 シルバー人材センターは、国や地方公共団体の高齢社会対策を支える重要な組織として、都道府県の指定を受けた社団法人である。村として、業務の委託や運営等に対する補助を行い、会員の募集も広報等において、役割や活動を知らせ、体制づくりを支援していく。

質問 委託先のシルバー人材センターの事業活動の現状は。
答弁 会員の減少で作業が重なる時期には人手不足する状況である。
質問 体制づくりの支援・応援していく考えはあるのか。

村道・農道等公共施設の除草業務委託は



立道 徹 議員

えはないか。

答弁 労務班の高齢化、今後深刻な課題である。作業の効率面も踏まえて今後、検討していく。

質問 人手不足の解消を図るために広域的なネットワークの構築の考えはないか。

答弁 新たな組織の構築も含め、他の市町村との連携も考え、今後の課題として検討していく。



道路の除草作業をするシルバー人材会員

本村の過疎地域等における集落対策は

質問 過疎地域の集落対策として、「集落支援制度」というのがあがるがどのような制度か。

答弁 地域の実情に詳しく集落等の支援を行うことで、支援員1人について350万円を上限に国の財政措置があり、県内でも6団体で8名の方がおられ、活動されている。業務内容は、地域おこし協力隊と似ており、集落の巡回、高齢者の方の見守り等である。

質問 この制度を導入して、集落対策を進める考えはないか。

答弁 業務の内容が各課、多岐にわたることもあるので必要性、財政面と協議を重ね、導入に向けて調査を進める。

村内小中学校における「いじめ」対策

質問 小中学校におけるいじめの実態はないか。

答弁 いじめの実態を把握し、いじめ防止検討委員会を開き、早期発見、解消に努めている。いじめの調査結果では、ひやかし、からかい、ものを隠されたというものであった。

質問 SOSの出し方教育の取り組みは。

答弁 特別活動の授業・保健体育の授業において、生活上の諸問題の解

決方法、思春期における不安や悩み
の解決方法、心の健康への理解を深
めたり、ストレス解消方法などの指
導を行っている。

質問 いじめの発見のきっかけとして、保護者等との連携を図り、未然防止につなげることも肝要かと思う
がいかがか。

答弁 未然防止策として、PTA総
会、学年懇談会等で保護者と教職員
が話し合う機会を設けている。保護
者からの電話相談、家庭訪問等を行
い、いじめの早期発見や対応を行
い、重大事態に至らないように取り
組んでいる。



松本 佳久 議員

乗合タクシー「まるおか号」

質問 平成29年度は延べ8795人の方が利用した「まるおか号」。今

後の運営方針はどのように考えているか。

答弁 「まるおか号」の運行経費は利用者負担が約25%、山江村の負担が約75%、警察署へ自主的に運転免許証を返納され運転経歴証明書を取得された方は更に半額の料金である。期限切れで免許証が失効した方は警察署からの運転経歴証明書の取得が出来ないので、助成制度については今後の研究課題とする。高齢者の方の利用料金割引についても村民の声を聴き、地域公共交通会議で検討を重ねる。利用者が少なかった路線バス時代に約1000万円の補助金をバス会社に支払っていた事を考えると、現在の運行補助金の約700万円は山江村にとっては割安となっている。



医療機関等への利用が多い「まるおか号」

総合振興計画(10年計画)の策定は

質問 平成21年3月策定の総合計画では「九州山江村の創造、人が魅力・自然が魅力・元気が魅力」を掲げていたが、今回はどのような考え方で進めるのか。

答弁 今回の10年計画は、①分かりやすい計画を、②村民と行政と協働で策定し、③活力ある村を創造し、④夢や希望を抱き愛着と誇りを持つ山江村の実現を目指すことを基本に進める。日本国が人口減少社会に突入した中で、いかにして「持続可能な山江村」を創り上げるのかが重要な柱である。小学生高学年以上の方にはアンケート調査もお願いし、また村内各地区で村民の声を聴く会も開催しますが、例えば託児所を開設するなどの工夫をして多くの方が参加できるようにします。役員職員には自分の課の事と、他の課の事について意見を求めていく。総合振興計画審議会委員には広く人材の公募を行いたい。総合計画の中には当然、財政計画も加えます。村づくり基本条例の制定は白紙の状態ですが、10年計画策定の中で調査研究をしたい。万江川上流の水利権返還は

10年前の総合計画に「万江川を次世代に大切に継承していくことは大切なです」との文言がありますが、水利権の返還について総合計画の中で具体的に記載する予定はない。この計画書は村民の皆様とともに策定し、計画書の概要版(中学生向け)など作成も検討したい。



横谷 巡 議員

公共事業推進に係る丁寧な説明責任のあり方について

質問 合戦峰物産販売所建設事業、栗のブランド化推進事業の進め方について、住民村民への丁寧な説明が不十分であったように思える。理解と協力、地域のコミュニケーション、計画段階からの手順など、丁寧な説明が求められると考えるが村長の所見を伺う。

答弁 公共事業の透明化については、広く情報公開をするという態度で接している。ご指摘の事業に対する進め方と説明不足があったとすれば素直に反省し、そのようなことがなきようしっかりと情報公開をしていきたい。

農業従事者の高齢化等、今後の農業を守る対策は

質問 農業従事者の多くが高齢者となり、今後の農業を守る対策が喫緊の課題となっている。そこで山田地区の農業法人化に向けた取り組みについて伺う。

答弁 地域の方々として話し合いを始め、将来的には3カ所程度の営農組織の設立を推進していきたい。

質問 法人化組織を将来的に考えるとのことであるが、農業の現状、先行きを考えると受け皿は急を要し、数年後には立ち上げるんだという意気込みが必要ではないか。具体的な立ち上げの目途について再度伺う。

答弁 目標としては、平成31年度に地域の方々と話し合いを始め、平成32年度設立に向けて動き出したい。

質問 個人で受託業務をされている

一般質問

質問 ここ数年で出し手と受け手のバランスが崩れはしないか。農家から受託されている方々の役割存在は大きく、法人化とともに、受託業務をされている方々への支援策をどのように考えているか。

答弁 個人で受託されている方は、それぞれ相対できれ、村の農作業標



実った稲穂、これからの担い手対策は

方、機械利用組合の状況について伺う。

答弁 機械利用組合の組合員数は20名、田植えが41件で約14ヘクタール、稲刈りが129件で約40ヘクタールである。個人で受託されている方は約10名で、稲刈りが主で約50ヘクタール程度である。

質問 マンモグラフィでは異常の判別が困難な高濃度乳腺に超音波検査受診を推奨すべきと考えるがどうか。

答弁 マンモグラフィ検査が導入される前から、超音波検査を実施している。

質問 要精密検査者に対して、どのような受診勧奨を行っているか。

答弁 家庭訪問し説明を行って精密検査を受診されるよう勧奨を行っている。

質問 過去3年間の平均検診受診率は56・17%で、要精密検査者数は27年度が9名、28年度が8名、29年度が4名である。

答弁 過去3年間の平均検診受診率は56・17%で、要精密検査者数は27年度が9名、28年度が8名、29年度が4名である。

質問 日本人の死因のトップはガンであり、女性の11人に1人が乳ガンに罹るといわれている。そこで、本村における過去3年間の乳ガン検診受診率と要精密検査者数について伺う。

答弁 日本人の死因のトップはガンであり、女性の11人に1人が乳ガンに罹るといわれている。そこで、本村における過去3年間の乳ガン検診受診率と要精密検査者数について伺う。

準貸金表を参考に契約されている。支援策については現状の農家経営状況、将来的課題を把握しながら農業振興対策を図っていきたい。

乳ガンの検診と自己検診の推進を



住民検診に無くてはならない検診車

質問 自己検診（セルフチェック）の普及啓発の取り組みはどうか。

答弁 セルフチェックは乳ガンを早期発見する有効な手段であるので、検診結果説明会、健康教室などで普及啓発を行っている。

質問 入浴時に乳ガンの自己検診に利用できるシートを導入する考えはないか。

答弁 乳ガンの早期発見に役立つことであるので検討したい。

質問 女性の健康支援をする「出前講座」開催の考えはないか。

答弁 毎年5〜8名の方々が乳ガンの要精密検査の対象者ということで、乳ガンに関わらず、様々なガンから健康を守るガン対策を見直させていきたい。

お知らせ

次回の議会定例会は
12月開催です。

議会を傍聴してみませんか。

村民の皆様には、議会傍聴（議場）にぜひご参加下さい。また、ケーブルテレビでの視聴のご意見等をお聞かせ下さい。定例会の日程等の問い合わせは、議会事務局までお願いします。

TEL: 23-3401

「議員活動の1コマ」



9月議会定例会（9月5日～14日）会期中の7日に、平成30年度村の公共工事等の現地調査を行った。特に大雨や台風等による災害個所の調査や、携帯電話等エリア整備事業など7ヶ所の現場を見回った。また、村民より議会へ陳情等があった案件についても、現地の調査を合わせて行った。



土砂崩れ等の災害現場の調査



豪雨水害による水田の調査

9月11日は、第69回球磨畜産共進会が球磨家畜市場（錦町）で行われ、村内からも2頭の育成種牛（1部）が出陳された。共進会には全議員で応援に駆け付け、上位入賞を見守った。

9月14日、9月議会最終日の閉会后、恒例の高速道路法面の村章（つつじ）マーク（上下線）の下刈り作業を行った。今回は、平成3年頃に植栽し、大きく伸びたつつじを初めて全体的に短くカットするなど、大掛かりな作業に議員と役場職員で汗を流した。2年後には新しいきれいな花が咲くことに期待しているところです。



見栄え、生育状況などの審査がある共進会



村章マークのつつじを短くカット(高速法面)

だんだんなあ

秋も深まり、朝夕は気温も下がって肌寒く感じる季節、山江の景色から黄金色も少なくなり、山々は色つき始め、冬が間近に感じる頃になってきました。

稲作の田んぼでは、竿掛け「かけぼし米」の様子が少なくなり、大型機械での刈り取りが多く、これらも少子高齢化や人手や担い手不足による現象ではないでしょうか。

今年度も残り2か月余り、7月に行われた山江村長選挙も内山村長が4期目の続投となりました。村民の内山村政に期待する声に議会議員も行政と協議しながら頑張って行かなければ成らないと思っております。

最近では原油の高騰の影響で、燃料、建設資材、農業資材、日用品など上昇する傾向でありますし、来年10月から消費税が10%に、軽減税率にも戸惑いがあり、どうなるのか気になる所です。これからの日常生活も厳しい対応が必要だと思えます。山江村ばかりではなく、全国的に少子高齢化の時代をどうにか乗り越えていきたいものです。

各市町村では農作物の収穫「農業祭」やイベントが休日ごとに開催されています。行ってみると少しは心が癒される気分になるかも。だんだん寒さが近づき、インフルエンザの発生も心配されるので、早めの予防と日頃の健康に心がけたいものです。

（文責 森田 俊介）

【議会広報編集委員】 委員長／立道 徹 副委員長／森田 俊介 委員／西 孝恒・赤坂 修